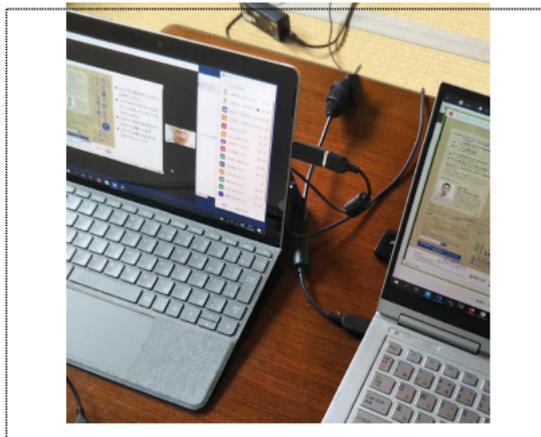


令和2(2020)年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)  
 実績報告書(プログラム実施報告書)  
 (研究成果公開促進費)「研究成果公开发表(B)  
 (ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI)」

課題番号：20HT0057

プログラム名：古文書を読んでむかしの災害を調べよう



所属 研究 機関	名称	東京大学
	機関の長 職・氏名	総長・五神 真
実施 代表者	部局	地震研究所
	職	准教授
	氏名	加納靖之

開催日	① 2020年8月8日(土) ② 2020年10月4日(日)
実施場所	オンライン
受講対象者	高校生
参加者数	① 27名 ② 20名
交付申請書に記載した募集人数	① 30名 ② 30名

プログラムの目的

挑戦的萌芽研究「明治初期の自然災害・天変地異カタログの作成」では、おもに明治初期に書かれた日記・随筆類や新聞記事から、地震や火山噴火などの自然災害や気象・天文現象に関する記述を抽出し、データベースを作成した。明治以前も含め、近代的な観測が始まる前に発生した自然現象のなかには、実態があまりよく分かっていないものが多い。そのため、過去の記録として残された史料を解読し、災害発生の時間、場所、規模を近代的な観測情報に「翻訳」することが重要になる。

本研究には史料の解読そのものの面白さもある。自然災害について、当時の人々は見たまま感じたままを記録していると思われる。昔の人々がどのようにそれを記載したか、また、災害にどのように対処したのかを知ることで受講生にとっても、むかしの人の考え方をただ知るだけでなく、自然現象に興味をもち、また災害軽減について考えることを目的とする。

受講生たちは、学校では教科ごとに分割して学習しているが、古文書や新聞を解読する国語科的な学習、あるいは歴史上の事件とその背景を知る社会科的な学習の延長線上に、地震が過去に繰り返し同じ場所で起こっていることを知り、古文書から地震の生じた年代を調べ、統計的に次の地震を予測するといった地学や数学的な理解があることを体験することで、大学では教科(分野)を複合した総合力でも勝負できることを知ってほしい。

## プログラムの実施の概要

### 【プログラムを留意、工夫した点】

- 昨年度定員が早めに埋まったため、同じ内容で2回開講した。
- COVID-19の感染状況および大学や社会の対応状況を踏まえ、オンライン会議ツールを用いたオンライン開催とした。
- オンラインであってもよりリアルな体験をしてもらうため、事前に資料を配布した。また、くずし字の辞書を貸与し、実際の研究に使うツールに触れられるようにした。
- オンライン会議システムの投票機能、チャット機能、分科会機能を活用し、特に分科会機能の活用と実施協力者の分担による少人数での実習は参加者の発言の機会が増えるなど効果的であった。また、事前に接続練習の時間を設け、当日はスムーズに進行できた。

### 【当日のスケジュール】

- 09:50～10:10 受付(集合場所:オンラインミーティング)
- 10:10～10:15 開講式(あいさつ, 日程説明, 諸注意, 科研費の説明)
- 10:15～10:50 講義(1)「古災害研究-なぜむかしの災害を調べるのか」(講師:加納靖之)
- 10:50～11:00 休憩
- 11:00～11:45 講義(2)「くずし字解読の基礎」(講師:加納靖之)
- 11:45～13:00 昼食
- 13:00～13:40 実習(1)「古文書を読んでみよう(江戸の日記・明治の日記・その他)」
- 13:40～13:50 休憩
- 13:50～14:30 実習(2) 続き
- 14:30～14:40 休憩
- 14:40～15:20 発表会(司会:加納靖之)
- 15:20～15:30 休憩
- 15:30～16:00 修了式(アンケートの記入, 未来博士号の授与)・解散

### 【事務局との協力体制】

広報や予算執行にあたって情報交換しつつ、事業をすすめた。

### 【広報活動】

Web(独自のページ <http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/people/ykano/event/hiramekitokimeki2020.html> および学内の広報サイト)やSNSでの広報を実施した。年度はじめの休校などによりポスターやチラシ(下図)配布の効果がみえなかったため有効であったのではないかと考えている。

### 【安全配慮】

COVID-19の感染状況および大学や社会の対応状況を踏まえ、オンライン開催とした。オンラインなら参加しないという声もあったが、秋以降の感染拡大を鑑みれば適切な判断だったと考えている。

### 【今後の発展性、課題】

- 歴史資料と災害を教材とする教育プログラムを実践し、より
- 今回のオンラインでの実施経験は、今後の小中高校への出前授業等のオンライン対応にも活用できる。
- 大学でのオンライン講義など、“With-Corona” “Post-Corona”の新しい大学のように伝える機会ともなったのではないかと考えている。



